

会議名	全国自立援助ホーム協議会あり方検討委員会（ケア基準・標準化グループ）第1回		
日時	2021（令和3）年9月16日（木）10：00～12：25	場所	オンライン（zoom利用）
出席者 役割所属 ※敬称略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 串間範一（会長/ウイング・オブ・ハート）・松本耕造（副会長/清周寮） ・ 前川礼彦（副会長/湘南つばさの家）・恒松大輔（事務局長/あすなる荘） ・ 江尻飛鳥（研修：長/あい）・大橋達也（広報：長/吾が家）・國分健作（制度政策：副/inn） ・ 合木啓雄（調査研究：副/丸亀おひさま荘）・万治貴史（事務局/カリヨンタヤけ荘） ・ 平井誠敏（慈泉寮）・高橋一正（ふくろうの家）・胡内敦司（家庭福祉課） 		
／11名			
○協議内容：			
⇒結論			
○高橋氏より運営指針について講義			
<p>○講義を受けて感想の共有と意見交換</p> <p>1，自立援助ホームの支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代や環境は変わっても、支援の根幹、理念は変わらない。 ・ホームの支援のあり方を振り返る際の指針になる。 ・聴講により反省含め、振り返る機会をもらい勇気づけられた。 ・キーワード一つひとつに納得できた。 ・原点に戻る機会がありたく、紙面だけでなく直接話を聴く機会があると尚更。 ・同僚職員と共有したい。現職員にも必要だが、これから入職する人材にも発信が必要。 ・ホームに見学に来た関係者にも伝えてきたが、十分だったかと振り返った。 ・指針を理解した上で、ホームなりの理念や要領の策定、可視化をし、共有したい。 ・「語る」…自分たちの思いをどう乗せてメッセージを伝えるか。 ・「聴く」…利用者の思いをどうくみ取るか。という点を再確認できた。 <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターケアの捉え方について詳しく。 <p>→入居中だけで完結することはあり得ない。利用者が困っている時に支援ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な背景の利用者が共同生活をする中で、「聴く、語る」機会を確保する取り組みは。 <p>→全員が対等な立場で話し合うというのはとても難しい。が、方法は多岐に渡る。</p> <p>ex:話し合いが難しいときはメッセージを渡して、次の機会に聴いてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：個別の話し合いで挙がった要望を、寮生ミーティングで発言してもらう。 ：ホーム外の人材からの勉強会を企画。 <ul style="list-style-type: none"> ・皆で話し合う機会を根付かせる工夫があれば。 <p>→「話し合い」というと堅苦しい。日常生活の中で気になっている何気ないことで発言しても良い雰囲気作り。実施が難しいときは無理に開催しなくても。アンケート形式も有効かもしれない。</p> <p>2，福祉サービス第三者評価との兼ね合いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立援助ホームとして外せない項目の精査、整理。 自立援助ホームならではの基準を打ち出していく。 ・協議の過程で会員ホームからの意見や疑問も募りながら、策定した基準に乗れないホームのフォローも行う。 			

- ・運営指針は「～でなければならない」という押し付け、強制するものではなく、これまでの実践や経験から積み重なったものを解説する物と実践事例集は別物として考えたい。
- ・第三者評価との連動をどう考えるか。
受審ホームが少ない現状の背景、理由の分析が必要。少ないままだと基準の改定を訴えるのも難しい面もある。

⇒まとめ

- ・今後も高橋氏の助言を賜りながら、各論を読み解いていく。
- ・動画配信やアンケートを活用して会員ホームへの周知、意見の集約をする。

⇒胡内氏よりコメント

- ・社会的養護関係は措置＝子どもが自分自身で選択できない。自立援助ホームは半分契約である。運営指針の議論を進めても、それが第三者評価とリンク必要はないのではないか。
- ・自立援助ホームが大事にするものを問われる項目を今後改定していけば良いのではないか。
- ・自立援助ホームをよく知ってもらうことは重要。実施主体が様々、他施設との入居ルートの違い等の多様性があるからこそ、全体で根幹部分を良くしていこうというのがこのグループの使命。

○今年度の委員会の進め方について

- ・次回以降、運営指針の各論について読み解き、理解を深め、共有する。
毎回 2, 3 項目に区切って、各ホームの実践の共有や意見交換を行う。
進捗状況と項目によっては事前に意見集約をして、割愛する部分もあるか。
次回は「1、支援」について。他項目よりも量質共に、重要である。
- ・策定時とのギャップ（就学支援、コロナ禍等）はあるが、普遍的な点を抽出して議論されたい。
- ・3月にまとめ（次年度以降に向けての総括）を行う。

⇒成果物の作成を目指すのではなく、指針の周知や理解（必要に応じて改定）を目的にする。

○全国の委員からの意見集約について

- ・ブロックごとの会議で意見交換。
- ・web 版目安箱（いつでも自由記述可能なフォーム）の作成。

⇒挙げた意見の扱いは内容や量次第で検討。

次回 日時：10月21日（木）10:00～12:00 場所：オンライン（zoom）